

第4次武蔵野市民地域福祉活動計画 論点整理シート

現状課題 (地域懇談会、策定委員会から)	課題に対する意見・アイデア等 (第2回、第3回委員会から)	第3次活動計画の進捗状況 (課題に関連するこれまでの取り組み)	第4回策定委員会の論点 (総括)
<ul style="list-style-type: none">・ 地域懇談会から出された共通課題・ 第3回策定委員会による委員からの意見、課題	<ul style="list-style-type: none">・ 現状課題に対する意見・アイデア等 (第2回、第3回策定委員会から)	<ul style="list-style-type: none">・ 現状課題に関連する第3次活動計画において行ってきた取り組み (第2回策定委員会における振り返り) <div data-bbox="1137 699 1608 1074" style="border: 2px solid red; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-top: 20px;"><p>この欄は第3次活動計画の期間中（H25～H29）に取り組んだ内容のため、左の課題（H30現在の課題）に合わせた表記（番号等）にはなっていません</p></div>	<ul style="list-style-type: none">・ 現状課題に対する総括 <取り組んできたこと> <取り組みが不十分なこと> <第4回策定委員会の論点> <p>→課題に対する <u>具体的な取り組みを考える</u></p>

1 地域活動の担い手を増やす

現状課題 (地域懇談会、策定委員会から)
1 新たな担い手の不足 <ul style="list-style-type: none">・若年層の関心不足・「若い人」の定義が異なる・新しい人（転入者を含む）を受け入れる雰囲気欠如・地域活動に関わる機会の欠如・役職を任されることへの抵抗感
2 活動のきっかけ <ul style="list-style-type: none">・まずは活動に関わることが必要・地域活動に踏み出す勇気が必要・報酬のある活動（コミセン窓口・テンミリオンハウス等）とない活動（地域社協・民生委員等）の整合性・シニア支え合いポイント事業 →本質的な地域活動につなげるためには・地域福祉ファシリテーター養成講座は3市合同により内容が薄まる →武蔵野市独自開催がよい・全体的に高齢者向け事業が多いので若い人が参加しにくい

課題に対する意見・アイデア等 (第2回、第3回委員会から)
1 新たな担い手の不足 <ul style="list-style-type: none">・地域のイベントに参加した子どもが大きくなり、担い手になった→将来への種まきが重要・中高生が地域に触れる場が必要・居場所（活動）に触れることが担い手につながる・働いている人も参加できる形
2 活動のきっかけ <ul style="list-style-type: none">・活動のきっかけは「福祉」でなくてもよい・ポジティブな視点からのアプローチを考える・「楽しい」「仲間づくり」をキーワードに・相手の関心度に応じたアプローチ方法を考える・ターゲットを明確にしたアプローチ→例) 子どもを通じて、親世代にPRする等・「地域でできること」「簡単に始められること」のリスト化・有償・無償活動の整理、連動例) シニア支え合いサポーターとVCM活動会員等

※ページ数は第3次武蔵野市地域福祉活動計画のもの

第3次地域福祉活動計画の進捗状況 (課題に関連するこれまでの取り組み)
<市民社協の取り組み> <ul style="list-style-type: none">○福祉学習事業 P.32<ul style="list-style-type: none">・実施校（小中学校）の増加→子どもたちが高齢者や障がい者福祉に触れる機会が増えた○夏！体験ボランティア P.32<ul style="list-style-type: none">→若年層（学生）の活動参加のきっかけとなった○ボランティア講座 P.32<ul style="list-style-type: none">・入門的講座や趣味を活かせる講座の実施→関心や楽しみを通じて活動につなげる機会が増えた○お父さんお帰りなさいパーティ P.32<ul style="list-style-type: none">→関心や趣味等を通じた新規参加者が、実行委員として活動を始めるケースが増えた
<関係団体の取り組み> <ul style="list-style-type: none">○民生委員・児童委員の日PR活動 P.33<ul style="list-style-type: none">・実施場所の変更（市役所からコピスへ）○障害・高齢分野での市民啓発事業（社福・武蔵野） P.33<ul style="list-style-type: none">→各分野の事業所を中心とした事業展開やイベントへの参加○デイサービス季節行事への参加（福祉公社） P.33<ul style="list-style-type: none">→一般市民や親子連れの参加あり。地域に開かれた施設として住民交流の場の提供ができた

第4回策定委員会の論点 (総括)
1 新たな担い手について <取り組んできたこと> <ul style="list-style-type: none">・若年層（学生）や定年退職者等を対象に、活動に触れる機会をつくった <取り組みが不十分なこと> <ul style="list-style-type: none">・現役世代（勤労世代）に対する取り組み <論点> <ul style="list-style-type: none">・新たな担い手として、主にどのような対象に呼びかけるか・活動に触れる機会を増やすための取り組みとは
2 活動のきっかけについて <取り組んできたこと> <ul style="list-style-type: none">・若年層や定年退職者等を対象に、学校の授業や趣味等を通じた活動に触れる機会をつくった <取り組みが不十分なこと> <ul style="list-style-type: none">活動に対する“第一歩”を踏み出す気持ちを育むための働きかけ <論点> <ul style="list-style-type: none">・相手に応じたアプローチ方法とは何か

2 地域活動情報の発信

現状課題

(地域懇談会、策定委員会から)

1 情報の質、分かりやすさ

- ・情報そのものに価値が感じられない。魅力がない
- ・プロはわかりやすい表現を嫌う。表現の工夫は重要
- ・自分に関係のある情報だと思わない

2 情報を届ける範囲

- ・限定的な範囲に対して限定的な情報しか発信されていない
- ・近所の情報が伝わってこない
- ・必要な人に情報が届いていない

3 情報の媒体

- ・広報紙やチラシは読まずに捨てられることが多い
- ・地域情報を知らせる掲示板が欲しい

課題に対する意見・アイデア等

(第2回、第3回委員会から)

1 情報の質、分かりやすさ

- ・ファンをつくるような仕組み(メルマガ等)
 - ・あいあい Twitter で情報発信
 - ・わかりやすい表現
 - ・真面目な情報が多い
- 多くの方に向けるにはメリハリが必要

2～3 情報を届ける範囲、媒体

- ・情報を届けたいターゲットに対する広報媒体の検討
- ・情報収集の媒体としてはWEBが中心。知りたい情報が掲載されている。更新されていることが重要
- ・居場所における意識的な「福祉情報の発信」

※ページ数は第3次武蔵野市地域福祉活動計画のもの

第3次活動計画の進捗状況

(課題に関連するこれまでの取り組み)

<市民社協の取り組み>

- 広報紙発行事業 [P.33](#)
 - ・広報紙、HPのほかFacebookでの情報提供を開始した
- 市民社協地域福祉活動展 [P.32](#)
 - ・地域イベントのブース等で地域活動のPRを実施した

<関係団体の取り組み>

- 奉仕団だよりの発行 [P.34](#)
 - ・年1回発行し、活動紹介を行っている
- 月刊広報の発行(福祉公社) [P.34](#)
 - ・事業紹介等を行った
- おいじたく講座(福祉公社) [P.34](#)
 - ・安心して生活していくための知識の提供、適切な制度利用へのつなぎを行った
- 地域情報の共有や相談連携支援体制の基盤づくり(社福・武蔵野) [P.38](#)

第4回策定委員会の論点

(総括)

1 情報の質、分かりやすさ

<取り組んできたこと>

- ・やさしい表現や写真等による分かりやすい情報の発信に努めた

<取り組みが不十分なこと>

- ・対象者に合わせた情報づくり

<論点>

- ・どのような対象をイメージして情報を作るか
- ・地域活動情報の魅力とは

2～3 情報を届ける範囲、媒体

<取り組んできたこと>

- ・従来の広報紙(新聞折込)、ホームページに加え、Facebookによる情報の発信を開始した

<取り組みが不十分なこと>

- ・新聞を取らない人へのアプローチ
- ・市民が集う場所でのPR
- ・世代に合わせた広報媒体、発信方法の検討
- ・手に取ってもらえるような形態での広報紙の発行。設置場所の拡大
- ・WEB検索を意識したタイトル等の検討。

<論点>

- ・情報が届いていない人へのアプローチ方法とは
- ・対象毎の適する媒体、情報の見せ方とは

3 地域の福祉活動を支える

現状課題 (地域懇談会、策定委員会から)
1 活動拠点 <ul style="list-style-type: none">・地域社協の活動拠点が無い・テンミリオンハウスを地域拠点として活用できない・コミセンと地域社協の協力体制
2 活動を支える専門職 <ul style="list-style-type: none">・第3次活動計画での記載にも関わらず地域福祉コーディネーターが設置されていない・地域専任担当職員の増員。理想は小学校区に1名。少なくとも6名程度（現在の倍）
3 その他 <ul style="list-style-type: none">・団体同士の交流がない・関係機関が別々の方向を向いている感じがある・個々の課題を集約する場がない・専門職と地域との連携不足

課題に対する意見・アイデア等 (第2回、第3回委員会から)
1 活動拠点 <ul style="list-style-type: none">・地域福祉活動の拠点の必要性和整備方針・コミセンはそれぞれの地域性があり、全体で動くことは難しい・自主三原則の継承
2 地域福祉コーディネーター <ul style="list-style-type: none">・地域専任担当に地域住民が期待する役割（優先順位）の整理・地域専任担当職員の育成
3 その他 <ul style="list-style-type: none">・団体の交流の場づくり・団体交流によって期待できる効果・関係団体による情報共有・情報共有と個人情報保護の関係・事業やイベントを通じた関係機関の連携や情報共有の促進・分野の異なる支援機関の連携

※ページ数は第3次武蔵野市地域福祉活動計画のもの

第3次活動計画の進捗状況 (課題に関連するこれまでの取り組み)
<市民社協の取り組み> <ul style="list-style-type: none">○地域社協活動費助成 P.39<ul style="list-style-type: none">・地域社協との協議による助成方法の見直し○地域社協活動支援 P.39<ul style="list-style-type: none">・地域福祉コーディネーターの設置は未実施 <p>→市内を3圏域に分け、圏域ごとに1名の地域専任担当職員を設置</p> <p>→地域担当業務の出張説明（市役所、在宅介護支援センター）</p> <ul style="list-style-type: none">○ボランティアフェスタ P.35<ul style="list-style-type: none">・代替事業としてボラカフェを実施（平成28年度から） <p>→ボランティア団体の交流の場</p> <ul style="list-style-type: none">○大学間ネットワーク P.40<ul style="list-style-type: none">→市内大学ボランティアサークルの交流○施設ボランティア懇談会 P.40<ul style="list-style-type: none">・施設ボランティア担当者の情報交換や研修によるボランティア環境の整備に努めた

第4回策定委員会の論点 (総括)
1 活動拠点について <取り組んできたこと> <ul style="list-style-type: none">・特定の地域において、地域内に拠点をもち関係機関・団体等に対し働きかけを行った <取り組みが不十分なこと> <ul style="list-style-type: none">・活動拠点に求められる機能の整理 <論点> <ul style="list-style-type: none">・活動拠点に求める機能とは何か（活動拠点で何をするか）
2～3 地域福祉コーディネーターについて <取り組んできたこと> <ul style="list-style-type: none">・市内3圏域に1名ずつの地域専任担当職員を配置した <取り組みが不十分なこと> <ul style="list-style-type: none">・地域福祉コーディネーターの設置に向けた協議にはいたっていない <論点> <ul style="list-style-type: none">・地域福祉コーディネーターに、どのような役割を期待するか（優先順位）

4 個人（高齢者・子ども・障がい者等）の困りごとや希望を支える仕組みづくり

現状課題 (地域懇談会、策定委員会から)
1 高齢者 <ul style="list-style-type: none">・高齢者が多くなっている・独居高齢者が増えている・顔見知りになる機会がない・高齢になり、外出が難しくなっている・権利擁護事業は高齢者や障がい者にとって重要
2 子ども <ul style="list-style-type: none">・子どもが安全に遊べるスペースが必要・乳幼児の親の交流の場が必要・子どもの虐待への対応
3 障がい者 <ul style="list-style-type: none">・障がいのある方との接点がない・障がいのある方を知らない・権利擁護事業は高齢者や障がい者にとって重要（再掲）
4 その他 <ul style="list-style-type: none">・大規模災害時の避難者への支援

課題に対する意見・アイデア等 (第2回、第3回委員会から)
1～3 個人を支える仕組み <ul style="list-style-type: none">・セキュリティの厳しいマンションの増加による対面機会の喪失・市の「いきいきサロン事業」が開始、高齢者サロンが増加・多様な生活課題を抱えた個人に対する支援について、どのように関係機関がネットワークを構築するか。・接触の難しい人へのアプローチの方法・権利擁護事業実施主体である武蔵野市福祉公社との連携・敬老福祉の集いはこのまま実施をしていけるのか。課題は多い

※ページ数は第3次武蔵野市地域福祉活動計画のもの

第3次活動計画の進捗状況 (課題に関連するこれまでの取り組み)
<市民社協の取り組み> <ul style="list-style-type: none">○地域専任担当職員 P.37ほか<ul style="list-style-type: none">→在宅介護支援センターや子ども家庭支援センター等、多世代の生活課題に対する相談が寄せられた○ボランティアコーディネート P.38<ul style="list-style-type: none">・生活課題に対応するボランティアのしくみとして試行事業「猫の手ボランティア」を実施○東日本大震災市内避難者支援事業 P.37<ul style="list-style-type: none">・戸別訪問による情報提供や状況確認、交流事業のバスハイクを実施。支援団体の活動にも協力
<関係団体の取り組み> <ul style="list-style-type: none">○武蔵野市独居高齢者実態調査 P.37<ul style="list-style-type: none">・3年毎に民生委員による戸別訪問調査を実施○友愛訪問（赤十字奉仕団） P.37<ul style="list-style-type: none">・敬老福祉の集いの案内を兼ね、安否確認・声かけを実施○敬老福祉の集い（赤十字奉仕団） P.35<ul style="list-style-type: none">・一定年齢以上の高齢者を対象に、友愛訪問を実施○地域ネットワーク会議（高齢者総合センター在宅介護支援センター） P.38<ul style="list-style-type: none">・エリア別地域ケア会議の開催による多機関の連携強化○社会貢献型市民後見人育成事業（福祉公社） P.38<ul style="list-style-type: none">・近隣7市合同で養成講習を実施

第4回策定委員会の論点 (総括)
1～4 個人を支える仕組み <取り組んできたこと> <ul style="list-style-type: none">・地域社協によっては「なんでも相談窓口」を地域内で実施した・VCMや地域専任担当職員が、支援を必要とする人を適切なサービスにつないだ・地域専任担当職員が地域に出向いた際に相談を受けた・VCMにおいて「猫の手ボランティア」を試行実施した（個別の生活課題に対応するしくみ） <取り組みが不十分なこと> <ul style="list-style-type: none">・支援を必要とする人に情報が行きわたっていない・相談窓口の認知度不足 <論点> <ul style="list-style-type: none">・どの支援機関にもつながっていない人とは、どのような人か

5 居場所（人がつながる場）づくり

現状課題

（地域懇談会、策定委員会から）

1 居場所（建物、機能等）

- ・気軽に集まれる場所がない
- ・使い勝手の悪い場所しかない
- ・1人でも立ち寄れる場所がない
- ・食事できるところが近所がない
- ・コミュニティ食堂があるとよい
- ・居場所となる建物がない
- ・多世代が集まれる場所やイベントがあるとよい
- ・「身近な地域の居場所」「テンミリオンハウス」「いきいきサロン」の違いが分かりにくい
- ・社協の考える居場所と現実にギャップはないのか

2 居場所（人、内容等）

- ・世代が離れると話が合わない
- ・居場所への参加者が偏っている
- ・居場所への参加者が少ない
- ・サロン活動の内容に幅がない（折り紙や歌ばかり）
- ・参加する人が増えないと支え手も増えない
- ・場所があっても担い手がない

課題に対する意見・アイデア等

（第2回、第3回委員会から）

1 居場所（建物）

- ・場所提供の呼びかけが必要
→市にも協力いただく等大きな仕組みがあるとよい
- ・空き家の活用
- ・コミセン本来の目的の再確認と、地域活動における活用

2 居場所（人、内容等）

- ・資源（担い手・実施場所・運営費等）の確保
- ・目的と手段を混在させない
→居場所はあくまでも関係性構築の手段。運営自体が目的ではない
- ・総合相談機能としての居場所の役割と自覚

※ページ数は第3次武蔵野市地域福祉活動計画のもの

第3次活動計画の進捗状況

（課題に関連するこれまでの取り組み）

<市民社協の取り組み>

- 居場所づくり支援事業 [P.37](#)
 - ・「身近な地域の居場所づくり助成事業」を開始（平成28年度）
 - ・助成だけでなく、居場所立ち上げ相談や活動支援の実施
 - ・実践者と活動を始めたい方との交流会を実施
- 「身近な居場所活動」の増加。
また、助成の有無に関わらず自主的な活動も増加した

<関係団体の取り組み>

- 社会活動センター（福祉公社） [P.37](#)
 - ・講座やイベント、自主グループへの参加による仲間づくりや社会参加を促進

第4回策定委員会の論点

（総括）

1 居場所（建物、機能等）について

<取り組んできたこと>

- ・場所提供者からの相談により、居場所活動につながった

<取り組みが不十分なこと>

- ・場所のさらなる開拓

<論点>

- ・どのように場所を確保するか

2 居場所（人、内容等）について

<取り組んできたこと>

- ・交流会等により、運営したい人や居場所に興味がある人同士をつなぐ場をつくった

<取り組みが不十分なこと>

- ・閉じこもりがちな人への周知
- ・居場所を行う目的意識の徹底

<論点>

- ・これからの居場所のあり方とは
- ・居場所に求める機能、内容とは
- ・居場所を必要とする人とは、どのような人か

6 ご近所同士のつながりづくり

現状課題 (地域懇談会、策定委員会から)
1 近隣とのつながり <ul style="list-style-type: none">・引っ越してきた方との交流が難しい・大人が挨拶しない等、交流を持ちたがらない・町内会がないため、情報共有や役割分担が難しい・独居等孤立が増えている・ちょっとしたことを相談できる人がいない・「我が事」として、市民全員が危機感を持つ必要がある
2 マンション <ul style="list-style-type: none">・マンション住民との交流がない・マンション住民の高齢化・マンション内の空き家問題

課題に対する意見・アイデア等 (第2回、第3回委員会から)
1 近隣とのつながり <ul style="list-style-type: none">・社会的孤立の解消への取り組み →結果として“つながりづくり”につながる・「他者とつながりたい人」は一定数いる・転入者に対し、武蔵野市での地域活動(町内会が一律にないこと、コミュニティ協議会、地域社協等)を周知する機会・「人づくり」のうえでの「支え合い」づくり・「福祉」に存在する見えないハードルがある・当事者体験がなければすべてが他人事・「我が事、丸ごと」と捉えるための仕組みづくり →当事者体験がなければ、他人事になってしまう・「防災」「防犯」をキーワードにした仕組みづくり
2 マンション <ul style="list-style-type: none">・大型集合住宅へのアプローチ方法の検討・管理組合への協力依頼

※ページ数は第3次武蔵野市地域福祉活動計画のもの

第3次活動計画の進捗状況 (課題に関連するこれまでの取り組み)
<市民社協の取り組み> <ul style="list-style-type: none">○近隣同士のつながりづくり P.35・地域社協による丁目や通り毎の集まりの実施・趣味や出身地等による共通の関心事による集まりの実施
<関係団体の取り組み> <ul style="list-style-type: none">○情報交換(高齢者総合センター在宅介護・地域包括支援センター) P.35・民生委員やテンミリオンハウスとの情報交換会や地域社協会議への参加による関係性の構築

第4回策定委員会の論点 (総括)
1 近隣とのつながり <取り組んできたこと> <ul style="list-style-type: none">・地域社協の活動により、丁目や通りごとの集まり、サロン、イベント等を通じて、近所の住民同士のつながりを作った・市民社協(VCM)のイベントを通じて、ボランティア団体等の交流の機会を創設した <取り組みが不十分なこと> <ul style="list-style-type: none">・増加傾向にある転入者への対応(情報の周知等) <論点> <ul style="list-style-type: none">・なぜ“つながりづくり”が必要なのか
2 マンション <取り組んできたこと> <ul style="list-style-type: none">・地域社協によっては、マンションとの交流や防災に関連する取り組みを行った <取り組みが不十分なこと> <ul style="list-style-type: none">・交流がないマンションがある <論点> <ul style="list-style-type: none">・オートロックマンションに対するアプローチ方法とは・他者と関係を持ちたくない人への対応とは(関係を持ちたくないからマンションに住んでいる)